

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	学習指導要領の3つの領域の中では、「書くこと」の領域が、全国との正答率より高かったです。一方、「話すこと・聞くこと」の領域では、全国との正答率よりも低かったです。話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることや資料を用いてスピーチをするよさの理解に課題が見られました。記述式の問題に関しては、全国との正答率より高かったです。
算数	学習指導要領の4つの領域の中では、「図形」の領域が、全国との正答率より高かったです。一方、「データの活用」の領域では、全国との正答率よりも低かったです。記述式の問題に関する正答率の低さが見られました。問題の意図を読み取り、考えを記述する力に課題が見られました。どの設問に関しても、無回答の児童は一人もいなかったです。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○学校に行くのは楽しいと感じている児童の割合は、全国平均より多いです。</p> <p>○友達と協力することを楽しいと思っている児童の割合は、全国平均より多いです。</p> <p>○困っている友達を助けようとする回答した児童の割合は、全国平均より多いです。</p> <p>○難しいことでも、失敗を恐れず挑戦したいと思っている児童の割合は、全国平均より多いです。</p> <p>●自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができると思っている児童の割合は、全国平均より少ないです。</p> <p>●家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は、全国平均と比べて少ないです。</p> <p>アンケートの結果から、充実した学校生活を送ることができている児童が多いと考えます。また、国語、算数の学習を好きと感じている児童も多く、学習にも進んで取り組もうとする態度が感じられます。しかし、自分の考えをもったり、友達に自分の考えを言葉で表したりすることに苦手意識を感じている児童も多いことが分かります。</p>

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

1時間の授業の中に、自分の考えを「書く」活動、「話し合う」活動を位置付けたり、ホワイトボードやGIGA端末等の思考ツールを効果的に活用したりする授業の流れ「足立スタンダード」を徹底し、職員で共通理解を図り、学校全体で授業改善に取り組んでいくことで、子ども達が自分の考えを進んで表現することができるようにしていきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

全校で「自主学習ノートコンテスト」を開催し、内容がよいノートやまとめ方が上手なノートを表彰し、掲示物等を通して、全校児童に紹介することで、子ども達が今以上に意欲的に自主学習に取り組んだり、自主学習の質を向上したりすることができるようにしていきます。また、学校だより等で「自主学習のすすめ」を積極的に呼びかけます。